

令和3年度

病害虫発生予察特殊報(第3号)

令和4年 2月17日
神奈川県農業技術センター

病害虫名 : tomato zonate spot orthospovirus (TZSV)

作物名 : ピーマン

1 発生経過

- (1) 令和3年5月上旬に県内のピーマン施設栽培ほ場において、葉、茎にえそ症状が発生する株が見られた(図1~3)。
- (2) 当所生産環境部による検定植物への接種試験及びRT-PCR法によって増幅したDNA断片の塩基配列解析から、tomato zonate spot orthospovirus (TZSV)に感染していることが確認された。
- (3) 本ウイルスは、これまでに国内での発生は確認されていない。

2 病徴および発生生態

- (1) 葉に退緑斑、えそ症状が発生する。場合によっては落葉し、生長点付近が萎れる。茎にえそ症状が発生することがある。
- (2) 病原ウイルスは *Orthospovirus* 属に属し、現在中国でのみ発生が確認されている。
- (3) 本ウイルスはアザミウマ類によって媒介されると考えられる。中国ではミカンキイロアザミウマが主な媒介虫とされているが、国内での媒介虫は不明である。
- (4) 中国において、トマト、トウガラシ、ばれいしょ、イチハツ (*Iris tectorum*) などでの自然感染が確認されている。



図1 葉のえそ症状1



図2 葉のえそ症状2



図3 茎で見られたえそ症状

3 防除対策

- (1) 国内での媒介虫は明らかとなっていないが、*Orthotospovirus* 属のウイルスであることから、アザミウマ類の防除対策を徹底する。
- (2) 施設栽培では、アザミウマ類の施設内への侵入を防ぐため、施設開口部に防虫ネットを展張する。
- (3) 育苗は、施設開口部に防虫ネットを展張した育苗専用の施設を利用するか、育苗場所に防虫ネットをトンネル被覆し、アザミウマ類の侵入を抑制する。また、育苗期から定植時のかん注剤や粒剤の処理を徹底し、栽培初期からのウイルスの感染を防ぐ。
- (4) 発病株は二次伝染源とならないよう、発見次第抜き取り、埋没等により適切に処理する。
- (5) アザミウマ類は雑草にも寄生するため、施設内及び施設周辺の雑草を除去する。
- (6) アザミウマ類の薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連用を避け、必ずローテーション防除を行う。

神奈川県農業技術センター 病害虫防除部
〒259-1204 平塚市上吉沢1617
TEL 0463-58-0333 FAX 0463-59-7411
<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/>